



(1) リベラルアーツ英語プログラム (ELA)

日英バイリンガル教育を支える語学プログラムで、主として日本語を母語とする新入生は必修となる。「語学科目」として英語を学ぶのではなく、学術的活動のための「道具」として英語を学び、創造的、批判的、主体的に考える力を身に付ける。特にグローバル社会に通用するCritical Thinking (批判的思考方法) を、集中的な英語学習環境で徹底的に訓練する。大学での創造的な学びへの導入プログラム。一方、主として英語を母語とする者は日本語教育プログラム (JLP) が必修。

(2) 学びの目的に合わせた留学プログラム

多様な留学プログラムがあり、留学先は41カ国/地域100大学にわたる。3人に1人の枠を持つ交換留学プログラムに加え、派遣のみの海外留学プログラムも多数。留学先で修得した科目は、審査の上40単位までがICUの単位として認定されるため、1年間留学しても4年間で卒業することができる。その他にも夏休みを利用した「海外英語研修」や短期留学プログラム、サービス活動を通じて単位を取得する国際サービス・ラーニングなど、さまざまな海外体験のチャンスがある。

(3) 世界中から集う学生と暮らす学生寮

緑豊かなキャンパスに点在する学生寮。全学生の約3分の1にあたる約900名が暮らす。世界50以上の国や地域から集う学生たちが主体的に寮を運営しながら共同生活をしている。「寮でもリベラルアーツ」がコンセプトの教育寮。

「THE 日本大学ランキング」で高い評価

ICUは「THE 日本大学ランキング」2023年度版で、総合部門で私立大学1位、国立大学を含めた全体で10位、教育充実度部門では全体で1位、私立大学では5年連続1位の評価を得ています。

「THE 日本大学ランキング」2023年度版で、総合部門で私立大学1位、国立大学を含めた全体で10位、教育充実度部門では全体で1位、私立大学では5年連続1位の評価を得ています。



31のメジャー (専修分野)

<b>【美術・文化財研究】</b> Art and Cultural Heritage	<b>【音楽】</b> Music	<b>【文学】</b> Literature	<b>【哲学・宗教学】</b> Philosophy and Religion
<b>【経済学】</b> Economics	<b>【経営学】</b> Business	<b>【歴史学】</b> History	<b>【法学】</b> Law
<b>【公共政策】</b> Public Policy	<b>【政治学】</b> Politics	<b>【国際関係学】</b> International Relations	<b>【社会学】</b> Sociology
<b>【人類学】</b> Anthropology	<b>【メディア・コミュニケーション文化】</b> Media, Communication and Culture	<b>【生物学】</b> Biology	<b>【物理学】</b> Physics
<b>【化学】</b> Chemistry	<b>【数学】</b> Mathematics	<b>【情報科学】</b> Information Science	<b>【言語学】</b> Linguistics
<b>【心理学】</b> Psychology	<b>【言語教育】</b> Language Education	<b>【教育学】</b> Education	<b>【アメリカ研究】</b> American Studies
<b>【アジア研究】</b> Asian Studies	<b>【開発研究】</b> Development Studies	<b>【環境研究】</b> Environmental Studies	<b>【ジェンダー・セクシュアリティ研究】</b> Gender and Sexuality Studies
<b>【グローバル研究】</b> Global Studies	<b>【日本研究】</b> Japan Studies	<b>【平和研究】</b> Peace Studies	

促進することを旨とし、修士を1年短い期間で取得できる『5年プログラム』を設置し、リベラルアーツの素養を持つプロフェッショナルの育成にも注力しています」(岩切学長)

「ICUでは、近年、他の大学でもリベラルアーツの重要性が再認識されていますが、多くは学部などの専門教育が核としてあり、その中にリベラルアーツが部分的に存在している形です。ICUの場合は教養学部アーツ・サイエンス学科の1学部1学科で、大学全体でリベラルアーツを実践しています。リベラルアーツという全体の中に、メジャー(専修分野)と呼ばれる31の専攻を擁する『メジャー制』を採用しています。分断や対立が深まる21世紀においてよりよく生きるためには、確かな人間のつながりを共有し、共生していく道を探らな

くはなりません。そのためにはしっかりと専門性を持ちながら、全体を俯瞰し、知的な、あるいは人的なネットワークを構築し、課題解決に向けてリーダーシップを発揮する能力が必要になります。そのような能力を育てるのがまさにリベラルアーツなのです」(岩切学長)

「その多様な知の集合体ともいえるリベラルアーツの基盤になるのがサイエンスです。この言葉は理工系の分野を指すのが一般的ですが、その語源はラテン語の『知る』です」と岩切学長は強調します。

「現代の学問を文系・理系に分ける前に、『サイエンス』の語源に戻ってみることが大切で、そこには、『知りたい』という情熱があります。その情熱を通じて新しく得た知識を他者と共有できる形にするために、リベラルアーツはアートの(技術・芸術・学術)を大切にします。教養学部アーツ・サイエンス学科という名称にその思いが込められているのです」

「リベラルアーツ教育は、日本では教養科目として捉えられがちで、多くの大学では1、2年次に一般教養を修めると、3年次以降は専門に入るカリキュラムとなっています。ICUでは、2年次の終わりにメジャーを選択しますが、その学修体系は基礎2年、専門2年という単純なものではなく、自分に興味のある

とは、より多様な視点から議論を深めることにもつながります。

また、ICUには世界から学生や教員が集まっており、さまざまな言語が飛び交っています。その環境を生かし、『日英2言語11言語』の複言語主義を推奨しており、日英以外の『世界の言語プログラム』として9言語を用意しています」(岩切学長)

「武蔵野の雑木林に囲まれたICUのキャンパスは約62万平方メートルで、東京ドーム13個分の広さを誇ります。教育・研究施設や礼拝堂などのほか、学生寮や教職員住宅などの居住スペースが一体となっているのが特徴です。この環境に恵まれたキャンパスは2023年10月、『ICU三鷹キャンパスの森』として、環境省が主導する『自然共生サイト』の認定を取得しました。

昨年4月には、献学70周年を記念して『トロイヤル記念アーツ・サイエンス館(通称T館)』がオープンしました。学生・教職員が交流する場や、学習スペース、セミナールーム、自然科学系の研究施設が組み込まれた『知の融合』を旨としたキャンパスの新たな拠点です。

こうしたハード面とともに、学生支援などソフトの面も充実しています。自分が何をどう学びたいのか、迷い悩みながら模索する学生に、アドヴァイザーの教員やアカデミック



いしきりしろう  
岩切正一郎学長  
1988年、東京大学大学院人文科学研究所仏語仏文学専攻修士課程修了。1993年パリ第7大学テキスト・資料科学科第三課程修了。ICU教授、教養学部長などを経て2020年より現職。詩人、フランス文学者として著書、翻訳書など多数。

# 国際基督教大学 (ICU)

〒181-8585 東京都三鷹市大沢3-10-2 パブリックリレーションズ・オフィス TEL 0422-33-3058 <https://www.icu.ac.jp/>

## リベラルアーツ教育の真価とは何か。社会の課題を自分事として捉えられるグローバルシテイズン」の育成にある

パンデミックや環境破壊、紛争といった難局に直面する一方、AI等の最新技術により急激な変化を遂げる現代。なぜ、今、「リベラルアーツ教育」に注目が集まるのでしょうか。「対話・多様性・批判的思考」を重視し、個としての確立を求めるリベラルアーツは、正解のない問いを考え続ける力を育みます。まさしく、不確実な時代にこそ、必要とされる力を涵養する学びなのです。

世界各国から学生や教員が集う武蔵野の自然に恵まれた国際基督教大学 (ICU) のキャンパスは、多様性にあふれ「小さな地球」のようなコミュニティが形成されています。こうした中で、献学(建学)以来、平和へのミッションを掲げてリベラルアーツ教育を実践するICUは、「世界通用性」を持つ大学として、責任あるグローバルシテイズン(地球市民)を育てています。

### なぜ、今、社会はリベラルアーツを求めるのか

地球規模の複雑かつ多様な問題に立ち向かうために必要とされる広範な知見や多角的視点は、実質的なリベラルアーツでこそ育まれます。岩切正一郎学長は「リベラルアーツは理念であると同時に教育のシステムであり、ユニバーサルな心をもったスペシャリストの養成なのです」と言います。

「近年、他の大学でもリベラルアーツの重要性が再認識されていますが、多くは学部などの専門教育が核としてあり、その中にリベラルアーツが部分的に存在している形です。ICUの場合は教養学部アーツ・サイエンス学科の1学部1学科で、大学全体でリベラルアーツを実践しています。リベラルアーツという全体の中に、メジャー(専修分野)と呼ばれる31の専攻を擁する『メジャー制』を採用しています。分断や対立が深まる21世紀においてよりよく生きるためには、確かな人間のつながりを共有し、共生していく道を探らな

### 学生一人ひとりが自主的にカリキュラムを創る

「リベラルアーツ教育は、日本では教養科目として捉えられがちで、多くの大学では1、2年次に一般教養を修めると、3年次以降は専門に入るカリキュラムとなっています。ICUでは、2年次の終わりにメジャーを選択しますが、その学修体系は基礎2年、専門2年という単純なものではなく、自分に興味のある

分野があれば、1年からでも専門の学びを始めることが可能です。また、メジャーを選択した後も、その分野を軸に関連する他の分野も自由に学ぶことができ、学際的に専門を深めていくことができます。どの科目を取り、何をメジャーにするか、留学を組み合わせるかなど、学生一人ひとりが自分だけのアカデミックプランニング、すなわち独自のカリキュラムを創ることが可能です。

この自由に学べるメジャー制により、多くの授業において、学年、国籍、分野も文理を超えた学生が混ざり合っており、環境が創出されます。まさに国際社会の形をキャンパスで疑似体験することが可能です。特に理系とそれ以外の専門の学生が日常的に混ざる環境は多くの日本の大学では体験できない大きな特長と言えます。

リベラルアーツの学びの集大成として、全学生が卒業論文を執筆するのもICUならではです。教員との距離も近く、卒論アドヴァイザーの専門的な指導を受けながら、自らの研究テーマを、自分のメジャーを中心に多様な学問領域を自由に組み合わせ、論文にまとめます。リベラルアーツの専門は、広く浅くではなく、深く掘り下げる学びなのです。

ICUでは卒業後、海外で働くことを目指している人も多くですが、国際機関やグローバル企業では修士以上の学位を重視しています。このため、ICUでは大学院への進学を

プランニングサポートスタッフなどが寄り添い、多角的に支援する体制を組んでいます。

また、経済的な理由で進学を諦めることがないよう、奨学金制度も拡充を図っており、毎年3人に1人の学生がICU独自の奨学金や外部機関による経済支援を受けています」(岩切学長)

最後に、岩切学長は受験生に向けてメッセージを送ってくれました。「未来はあなたが創るのです。そのためには人間力が大事です。皆さんがICUで、A specialist with a universal mind'な人になることを期待しています。皆さんの中には、自分がいったい何をやっていいかわからないと悩んでいる人も多いことでしょう。ICUはそんな悩みを大事にする大学で、迷いを持って入学しても、きっと自分のやりたいことが見つげられる場所です。最初の一步は、いつも途中から始まるのです。ICUはクリティカルシンキング(批判的思考)で課題を捉え、多様な存在を受け入れることのできる『グローバルシテイズン』の基礎を創る大学なのです」